

# ロシア 東欧 経済速報

社団法人 ロシア東欧貿易会 東京都中央区新川1-2-12 金山ビル 郵便番号104 電話 (3551) 6215~9  
ロシア東欧経済研究所 [購読料・送料共前納 1ヶ月—1,500円 1ヶ年—18,000円]

1997年(平成9年)3月5日 No. 1050

## 目次

1996年のCIS諸国の経済	1
—中央アジアから始まった成長—	
キーパーソン	11
ロシア憲法裁に新長官/11	
ウクライナで経済閣僚の更迭/11	
新内閣発足も前途多難のベラルーシ/12	
統計速報	12
データフラッシュ/12	
1996年の日本の対CIS・東欧諸国貿易(確定値)/13	
CIS諸国通貨の最新為替レート	13

## 1996年のCIS諸国の経済

### —中央アジアから始まった成長—

はじめに CIS統計委員会は、1996年のCIS諸国の経済実績を発表した。今回の速報では、*Interfax Statistical Report* (1997.2.21, No.8) 等に掲載された1996年のCIS諸国の経済データを紹介するとともに、経済事情を国別に解説していくことにする。

なお、以下に示す1996年の経済データは基本的に暫定値であり、一部推計値も含まれる。

### CIS全般：結成から5年目の「明暗」

1996年のCIS12カ国合計のGDPは、前年比実質6%低下した。しかし、経済実績は国ごとにかんがいのばらつきがあり、跛行的な様相を呈している。一言で言えば、ロシアをはじめとする欧州諸国で経済が統落したのに対し、中央アジアおよびコーカサス諸国では回復に転じている。例外は、統計の信憑性が疑わしいベラルーシのプラス成長と、内戦の続いたタジキスタンのマイナス成長である。CISはEUとは異なって、経済規模の点で構成諸国間に大きな開きがあり、ロシアとウクライナだけでCIS全体のGDPの89%を占める(1995年)。この両国で経済回復が遅れていることが、CIS経済が全体として上向いていない原因である。